

製品市場の荷動き・価格先行き動向調査(25年6月分)

1. 調査実施期間 平成25年 5月20日 ～25年6月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/6月	7月	8月
入荷動向	国産材製材品	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
	外材製材品	△ 20.0	△ 10.0	△ 10.0
	その他			
販売動向	国産材製材品	10.0	20.0	10.0
	外材製材品	△ 20.0	△ 20.0	△ 30.0
	その他			
在庫動向	国産材製材品	0.0	△20	△20
	外材製材品	△ 40.0	△ 30.0	△ 40.0
	その他			

入荷は、国産材、外材ともマイナス基調で推移。
販売は、国産材はプラス基調であるが、外材はマイナス基調で推移し8月はマイナス幅増加。
在庫は、国産材は6月のゼロから7月、8月とマイナスに、外材はマイナス基調で推移。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		25/6月	7月	8月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	20.0	20.0
	柱角 KD12×3	0.0	20.0	20.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	△ 12.5	0.0	0.0
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	10.0	0.0	0.0
	間柱	10.0	20.0	20.0
	加工板	12.5	0.0	0.0
	ヌキ	△ 10.0	0.0	0.0
	平割	10.0	10.0	10.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	20.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	10.0	0.0	0.0
	土台角 10.5×4	40.0	10.0	10.0
	土台角 12×4	20.0	10.0	10.0
	通し柱 12×6	20.0	0.0	0.0
カマツ土台角10.5×4				
米マツ平角	70.0	40.0	40.0	
米マツ割物	70.0	40.0	40.0	
北洋エゾマツタルキ	50.0	25.0	25.0	
北洋アカマツタルキ	70.0	50.0	50.0	

スギ通し柱、母屋角は横ばい、柱角は6月ゼロから、7、8月とプラスに、間柱、平割はプラス基調、桁角、ヌキは6月のマイナスから7、8月と横ばいで推移、タルキ、加工板は6月のプラスから7、8月は横ばい。
ヒノキは総じて6月のプラスから、土台角は6、7月にはプラス幅縮小、それ以外は横ばいで推移。
外材製品は、6月の大きなプラスが、7、8月にはプラス幅が減少。

モニターからのコメント

(入荷動向)・国産材変化なし、外材は為替変動で入荷量は不透明、タイト感あり高値。・国産材は端境期で減少気味。・ロシアからの出材少なく製品は不足気味。

(販売動向)・外材高値のため減少傾向、・国産材、外材共に一部品目を除いて大きな動きなし。・品薄のメーカー、樹種は好調、単価UPで売上げ増加。・ヒノキプレカット工場からの注文増加。・北洋材は単価が高値のため荷動き鈍る。

(在庫動向)・入荷も少ないが、需要も旺盛でないため低レベルでバランス。・全体的在庫多くない。・ヒノキKDは在庫減るが、グリーン材は寸法により増加している製品も。北洋材は入荷が段々減少のため在庫が少なくなる。・北洋アカマツタルキはロシア夏期伐採で材質悪くなるため減少。・全体的に在庫多くない。スギKDは荷動き良好。

(価格動向)

・スギKD中心に相場も含め強い状況。・ヒノキ10.5柱角少々上がっている。・米加材は品薄のため強い。・米マツも原木高で値上がりするが売れ残る。・北欧材は供給過剰のため弱。・北洋アカマツタルキは最高の単価になるため代替に移行する様子。・米マツ平角、北洋アカマツタルキが替のためやや上昇。WWはEURの動向により変動の可能性。